

## 令和3年度 第3回狛江市基本計画推進委員会会議録

- 1 日 時 令和3年8月25日（火）午後7時00分～午後9時24分
- 2 場 所 第一委員会室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁 副委員長 上田 英司  
委 員 牧瀬 稔 委 員 尾花 尚弥  
委 員 猪熊 茂男 委 員 落合 香代子  
委 員 小尾 将彦 委 員 マクリーン 由美  
委 員 高橋 良典  
事務局 富田政策室長 五十嶺企画調整担当主任  
猪野企画調整担当主事
- 4 欠席者 委 員 八峠 恵子
- 5 議 事 1. 評価対象施策A「風水害に対する備えの強化」に対する評価について  
2. 評価対象施策B「緑の保全・創出」に対する評価について  
3. 評価対象施策C「発信力の強化・双方向による共有」について  
4. 評価対象施策D「切れ目のない支援体制の確立」について  
5. その他

### 6 会議概要

1. 評価対象施策A「風水害に対する備えの強化」に対する評価について  
—事務局から説明—

#### 【委員】

前回会議であった、避難所の新型コロナウイルス感染症対応について、備品等が置かれているかの質問があったが、どうなっているか。現状についてお聞きしたい。

#### 【事務局】

ソーシャルディスタンスを保つための簡単な間仕切り等一定の必要備品については令和2年度の予算の中で購入している。

また、避難所としては指定できてはいないが、地域センター等にも避難所として必要な備蓄費用品も設置している。

#### 【委員長】

この質問票の回答を伺った上で、経営的な視点、狛江らしさの視点、市民参加・市民協働の視点から、御意見をいただきたい。

#### 【委員】

ハザードマップにもあるように、災害の規模は想定されているが、その際にどのくらいの人が避難するのか、そしてその避難した人たちが全員入れる避難所のキャパ

シティーがあるのか。そのシミュレーションも行っていく必要があるのではないか。

また、ハザードマップで浸水想定区域が決められているのであれば、その地域への情報発信を重点化する必要があるのではないか。また、若い世代への周知についても、そういった視点を持っていくことも大切である。

**【委員長】**

特定の避難所に避難者が集まってしまうことも想定されることから、どの避難所が空いているのか等の情報を発信していくことが重要になってくると思われる。

**【委員】**

自宅の近くの避難所が満員となってしまうのであれば、狛江のコンパクトさを活かし、別の避難所に案内することもできることから取組を検討すべきではないか。

**【事務局】**

今回の外部評価は令和2年度の評価になるが、令和3年度に民間企業と協定を結び、各避難所の空き状況が確認できるシステムを構築している。

**【委員長】**

民間商業施設も避難所として開設できるという情報もしっかりと周知していただければと思う。

**【委員】**

水位カメラについて2台設置と書かれているが、台数としては足りているのか。

**【事務局】**

多摩川には狛江市で1台のほか、調布市にもカメラがあり、そちらでも確認ができる。また野川についても1台設置されていることから、現時点では、2台のカメラを維持していく方向で考えている。

**【委員】**

市境に住んでいる人等は、狛江市の避難所に行くよりも、調布市や世田谷区の避難所に行く方が近い場合もある。近隣自治体との避難所に関する連携等も必要になってくる。

**【委員】**

全般的に災害関係となると避難所整備等、ハード面に注目されがちであるが、整備等には財政負担が伴う。災害時に人がどのように行動していくか、どのように行動させるかという面等から、課題を持って実施していると思うが、どのような課題を持って実施しているかがわからないものもあるので、ソフト面についても検証をしなければ、ハード面が中心の施策となってしまうことから、ソフト面で何が課題で、どう変えていき、結果としてどのような効果が現れたかを意識していくことで、ハード面だけでない財政制約を意識した施策になるのではないか。

**【委員】**

施策評価シートの中で、成果という文章があるが、この成果が、大幅に進んでいるものなのか等がわからない。自己評価のようなかたちで示すことはできないのか。

**【事務局】**

施策評価シートには、委員会として評価していく施策に係る事業の成果及びその成果について、数値で示すことができるものとして、指標が書かれている。成果には、市としての方向性を示しているため、その方向性に向かって進んでいるか等も施策評価の参考としていただきたい。

**【委員】**

市民参加・市民協働の視点については、様々な事業を行っているので、評価できるのではないかと。ただ、市民は住民だけでなく法人も市民の一部だと思うので、法人も巻き込んで実施していくと更に良い。経営的な視点では、本施策は市民の命に関わる事項なので、ある程度ハード面にも財源を投入していくことも必要ではないかと。

**【委員】**

施策評価シートの指標には方向性が示されているが、避難所の数等具体的な数値の目標はないのか。指標A「水害時の避難所・避難場所」の箇所数については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、避難しても入りきらないという状況が明らかであることから、どれだけの避難所を設置していくという数値目標としては出さないのか。

**【事務局】**

前期基本計画の施策指標が設定されているものについては、目標値が設定されているので、今回評価している重点化した方向性につながるものがあれば、記載している。現在避難所として位置付けているのが市内の学校の10校となるほか、福祉避難所として、あいとびあセンターや西河原公民館等を位置付けており、市内の公共施設等を中心に位置付けられているが、浸水想定区域の住民が全員は入れない現状であるため、避難所を増やしていかなければならないということも御提言としていただきたい。

**【委員】**

令和元年東日本台風の際には、議場を避難所として活用したことからも、避難者数と避難所の所要人数についても、計画的に想定しながら事業を進めていくべきである。

**【委員長】**

指標B「洪水想定浸水深及び避難所表示板の設置数」について、年度毎に設置数が異なっており、方向性として維持としているのはどういった趣旨か。

**【事務局】**

洪水想定浸水深及び避難所表示板は電柱等にその場所の浸水時の深さと避難所を示す看板であり、令和2年度については新たに70基の看板を設置したほか、平成30

年度に設置した既存の 70 基においてもリニューアルを行った。今後はその 145 基を適切に運用していくという意味で方向性を維持している。

**【委員】**

市民アンケートでも避難訓練等について、「参加していた」という割合が落ち込んでいることから、その数値を上げていくような取組を行っていかねば、いざというときに動ける市民が増えないのではないか。

**【委員長】**

自主防災組織や防災訓練等の参加者については偏りがある等も課題であることから、多くの世代、多くの方が参加できる仕組みづくりも検討していただきたい。

**【委員】**

狛江市は過去に災害を経験しているという部分はある意味強みの一つであることから、当時の映像等も活用していくことが狛江らしさといえるのではないか。

**【委員長】**

過去の災害の様子を子どもたちの防災教育に活かしていくこと等も考えていただきたいと思う。

**【委員】**

補足になるが、基本的には学校の体育館を避難所として活用している。しかし、水害を見据えると、浸水の恐れのある学校については、校舎の 2～3 階も避難所として活用できるよう進めている。

また、令和元年東日本台風時には、冠水による車の被害も多くなったことから、民間商業施設の立体駐車場に車で来ていただき、車内で避難をしていただく体制も整備している。

**【委員】**

車による避難が多くなり、車道に避難待ちの車が渋滞してしまう等すると、緊急車両の通行の妨げになることも考えられるのではないか。

**【委員】**

そういった状況も十分考えられるが、令和元年東日本台風の際にも、車で避難所に来る方が一定数いたことから、車を別の場所に移動させるという意味でも、民間企業の力を経て、場所を確保したというかたちになる。

**【委員長】**

緊急車両のことを踏まえても、車による避難所の情報も適宜提供していただければと思う。

**【委員】**

他の避難所と同様に車の台数においても、予め数字として出してもらえると、避難時の参考にもなるのではないか。

## 2 評価対象施策B「緑の保全・創出」に対する評価について

—事務局から説明—

### 【委員】

一人当たりの公園面積は、東京都 23 区・26 市の平均と比べても狛江市は少なく、これは市の統計等には掲載されていない。臨時財政対策債も低金利であることから、これを機に起債し、社会資本の充実に努めるべきではないか。

### 【委員】

都市計画の中で、緑についてどうあるべきか、どう増やしていくかという行政内の横横の連携を強化していかないといけないと感じる。

### 【委員長】

アドプト制度の活用という話もあったが、公園に限らず、緑をどう管理していくかも重要である。管理についての仕組みづくりについても進めていただきたい。

### 【委員】

森記念財団が都市力の総合ランキングを発表し、そのスコアの中で「災害時の安全性」「街路の清潔さ」「居住環境の満足度」では、三鷹市が1位となっている。狛江市としても参考にできるものがあるのではないか。

### 【委員長】

緑の減少に歯止めをかけるためにも、管理体制も重要だと思われるが、アドプト制度にしても、団体の高齢化が問題になっていることも多く、持続可能な団体活動の継続についても検討いただきたい。

### 【委員】

公園を増やすのは今すぐには困難かと思うので、今ある緑を活用していかねばならないと思う。例えば農地の活用として、作物をアピールすることで、市民に興味を持ってもらう等、市が協働して行うことで、緑は減少しないのではないか。

### 【委員】

狛江らしさとして、多摩川があげられると思うが、緑の保全と創出については、狛江市だけ推進しても意味がないと感じる。狛江を中心として広域的に緑化を見ていくのも一つの手ではないか。

### 【委員】

SDGs の視点から見て、持続可能な緑をどうつくっていくかについては、行政だけでなく市民又は民間企業の力が重要であり、民間企業が活動しやすくしたり、市民団体同士をつなぎ、潤滑油となっていく等の仕組みづくりも必要になってくるのではないか。

### 【委員長】

魅力的な公園づくりについても、民間企業や市民と協力しながら進められるといいのではないか。

3 評価対象施策C「発信力の強化・双方向による共有」について

—事務局から説明—

【委員】

LINEの活用について、現在新型コロナワクチンの接種予約等で使われており、その後も市から情報が入ってくるようになっているが、市民からの発信はできるのか。

【事務局】

現在の機能としては、市からの発信のみとなっている。

【委員】

今回の新型コロナワクチンの関係で、かなり多くの市民が利用したと思うので、今後双方向で発信できれば、より良いツールになると思う。

4 評価対象施策D「切れ目のない支援体制の確立」について

—事務局から説明—

【委員】

ひだまりセンターは市役所のどの部署との連携が多いのか。

【事務局】

ひだまりセンター内には、子ども家庭部の子ども発達支援課と市教育委員会の教育支援課が設置されており、保育園や学校等と連携している。

4 その他

—議題3、4については、質問票にて、8月31日までに事務局まで提出をお願いする。—

—次回会議については、9月14日（火曜日）の午後7時より開催する。—